

令和4年度 長野県松本深志高等学校 卒業証書授与式 式辞

今年はラニーニャ現象の影響のためか、寒暖差の大きい極端な気象を特徴とする冬となりました。しかしここ数日は、日ごとに昼の時間帯が長くなるとともに、日差しも輝きを増し、春の気配が少しずつ感じられるようになってまいりました。木々のつぼみも我先にと膨らみはじめ、生命の息吹あふれるこの佳き日に、令和四年度長野県松本深志高等学校卒業証書授与式を挙げる運びとなりましたこと、まことに喜ばしく、日頃から本校に対しまして格段のご支援・ご高配を頂いております多くの皆様に衷心より御礼を申し上げます。

ただいま、全日制普通科二百七十五名のみなさんに卒業証書を授与いたしました。

本日ご列席の、あるいは後日この映像をご自宅で視聴される保護者の皆様、ご家族の皆様には、お子様のご卒業、まことにおめでとうございます。高等学校の全課程を終え、立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、併せて入学時の様子や在学中のこと、場合によっては生まれた時のことなども思い起こされる中、日頃のご苦労ご訓育がここに実り、今日この日を迎えられる感慨もひとしおのことと拝察いたします。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

本日皆さんは、この伝統ある松本深志高校における三年間の全日制課程を修了し、ご卒業の運びとなりました。まずは、皆さんのこの三年間におけるたゆまぬ努力と精進を褒め称え、将来に向けてのエールを送りたいと思います。皆さんにとって、この三年間は必ずしも順風満帆ではなかったかもしれません。幾多の悩みや失敗、挫折や困難、そして我慢を強いられる場面や時にはあきらめの念を抱いたこともあったと想像します。しかし、いかなる時にも皆さんのことを絶えず気遣いながら支えてくださったご家族や周囲の方々がいたことを忘れてはなりません。無償の愛情でここまで育ててくださったご家族に、そしてお世話になった周囲の方々、仲間たちに、心より感謝の気持ちを伝えてもらいたいと思います。

さて、皆さんが高校生活を送ったこの三年間は、同時に世界を震撼させたパンデミックにより、社会生活や経済活動において多大なる影響を受けた三年間でもありました。思い返せば、三年前の中学校の卒業式は突然の休業期間の中で制限を受けながら実施されたのみならず、高校の入学式は何とか実施されたものの、四月当初から再び二か月に及ぶ休業期間となったため、思うように高校生活をスタートさせることができなかったことと思料いたします。その年の部活動の大会はことごとく中止となり、さらに多くの学校行事も中止となるなど、皆さんの高校生活の多くの場面において、これまで定番とされる学習活動

や諸行事の見直しを迫られ、新しい方式に構築し直すことの連続でした。我々高等学校教育に携わってきたものにとっても、普遍的な高校生活のスタイルというものが絶対ではないことを思い知らされた三年間でした。折しも十一年前、東日本大震災や福島原子力発電所の事故を目の当たりにした我々は、日常生活が日常であることの有難さを実感し、同時にそれが絶対的なものではないということを知りました。諸行無常を達観している場合ではなく、変化の大きな社会において、今後どのように対応し、生きていくべきかについて考える必要性に迫られた十年であったと言っても過言ではないでしょう。

加えて、ものの考え方や技術力の面においても、大きく変化を遂げた十年間でもありました。例えば、脱炭素社会を目指す動きが加速化し、長野県においてもゼロカーボンに向けての政策が推し進められる中、高校生の学びにおいても SDGs 実現に向けての考察や、地球環境や持続可能な社会形成に向けてのアクションが重視される価値観となって参りました。また、近年注目されてきた、互いの多様性を認め合う考え方も、特に今年度は日本全体で考えられる機会の多かった年ではなかったかと思われます。そうした中、共生社会の実現を図るためのダイバーシティー・マネジメントが人々の中に定着してまいりました。

我々を取り巻く ICT 環境もまた大きな変化を遂げたことは言うまでもありません。コロナ禍をきっかけに始まったオンライン授業に加え、タブレットなどのデバイスを用いた学びが展開したのは、皆さんが高校に在学していたこの三年間の変化でもあります。さらに AI の技術深化は著しく、ついにチャット GPT なる文章生成ソフトも出現し、これからの社会にどのような影響をもたらすのか先の読めない状況となっています。まさに、震災の年である二〇一一年に、アメリカの研究者が、当時の小学校入学者、すなわちこれは卒業生の皆さんの世代なのですが、彼らが大学を卒業する際は、その六十五％は当時存在しない職業につくだろうと预言しましたが、その预言も現実のものとなる気配が漂い、私達大人もまた、今まで通りを決めこんで、変わらずにすることが許されない状況となっていることを感じているところです。しかし、そうした社会の変化に対応する力のみならず、自分の思いや活動を通じて社会を大きく動かすであろう力を、皆さんはこの三年間の学びと経験の中で蓄えてきたことは間違いありません。深志での様々な学び中では、大学入試のための知識技能だけではなく、目の前の課題に対して自ら考え、仲間と協働し、解決方法を見出すための生きる力が皆さんの中に育ってきていることを私は確信しています。今後予測困難と言われる社会の変化のうねりに臆することなく、自分自身に対して自信を持ってこの学び舎を巣立って行ってほしいと願っています。

また、今年度より十八歳を成人年齢とする法律改正が施行されました。つまり多くの皆さんは法的に成人となり、これまでは未成年として保護者の同意なしではできなかった様々な契約、消費者としての意思決定を、すでに自らの責任で行うこととなっています。言い換えると、契約や消費行動に際しては、相手の意図を把握し、自分にとって必要かどうか、自己の生き方に役立つかどうかを、自分で考え決定していかなければならないとい

う環境にすでに置かれていることを意味します。これから保護者や家族から自立して生きていく上では、さらにそうした場面に直面するでしょう。自ら考え、周りの意見を聞き、判断していく力、これも探究的な学びの中で、そして「深志の自治」に身を置いた中で皆さんが培ってきたことでもあります。今後自立し、自己決定の機会が増えたとしても、決して恐れることなく、しかし冷静にこれまで学んできた生きる力をフル活用しながら、社会で大いに活躍していただきたいと願っています。

本日、みなさんにはたくさんの「卒業おめでとう」の言葉が贈られると思います。様々な活動に前向きに取り組み、今日の卒業という舞台に立つ、みなさんのこれまでの精進、努力に対する賞賛の言葉がありますが、同時に、これからの新しい未来を創っていくみなさんへの大いなる期待と激励の言葉でもあります。これからの人生も、楽しいこと、いいことばかりではなく、むしろこれまで以上に思いどおりにならないことの方が多いと思います。

みなさんには、この三年間にそうしてきたように、そのすべてを受け入れ、たくましく乗り越えて行ってほしいと思います。周囲への感謝を忘れず、周囲の人たち、そして自分自身にも敬意を払い、「今を精一杯生きること」を続けて行ってほしいと思っています。

卒業生のみなさんの人生に幸多かれと祈り、本日ご列席の皆様に感謝を申し上げて、式辞といたします。

令和五年三月三日

長野県松本深志高等学校長 石川 裕之